

## SG講演会③-2

日時 平成28年4月27日(水) 5校時(14:05~15:05) 後半

場所 丸亀高校 第2体育館

対象 丸亀高校 1年生281名、教員16名

講師 深井 誠一 氏(香川大学農学部 教授)

演題 「生物資源分野からの地方創生」

内容等

農学部とは「生物を資源として捉え、その生産と・活用に関する研究・教育」をしている所であることや、5つのコースで「生命科学の基礎を理解してバイオテクノロジーへの応用をめざす」「環境問題を考える」「生物資源や生物機能を化学の視点から学ぶ」「食品の機能を科学的に知る」などの研究を行っていることは、農学部は農業について学ぶところであると思っていた生徒にとって、農学部での研究が多岐にわたり、自分達の生活に広く応用できることを理解させてくれたようである。また、自分達の暮らしが「生物資源」を基盤にしていることを再認識させてくれた。



また、「オリーブ学」「希少糖学」など香川県らしい研究や「新品種の育成」「商品化・産業化」等に取り組んでいることに、生徒は「生物資源」と「地方創生」とのつながりを見つけようとする意欲を高めたようである。

また、「オリーブ学」「希少糖学」など香川県らしい研究や「新品種の育成」「商品化・産業化」等に取り組んでいることに、生徒は「生物資源」と「地方創生」とのつながりを見つけようとする意欲を高めたようである。



生徒の主な感想

- ・生物を資源とみるという発想に驚いた。
- ・食生活に大きく関わる学部であると分かった。
- ・農学部は「農」という文字がついているけど、農業だけじゃないことを初めて知った。
- ・農学部とは言っても遺伝子などの研究を中心に行っていることが分かりちょっと意外だった。
- ・農業高校の延長とっていたが、生物についての研究もしていることを知り、進路の枠が広がった。
- ・遺伝子組み換えとか面白そうだった。
- ・身近なところから研究されたものが多いことが分かった。そうやって地域に根付いた研究や生活に役立つものができるのは楽しそうだった。
- ・農学部の研究などは自己満足ではなく、世界に通用するものだと分かったので、こういった形で国際社会に貢献するのもありだと思った。
- ・生活に役立つものを多く研究していてすごいと思った。
- ・香川県のアピール要素をたくさん生み出しているところだと知って、興味がわいた。
- ・地域を発展させるための研究がなされていて、地方創生に生かしているのがすごいと思った。
- ・地方創生は、飛躍した考えを必要とするものではなく、小さな身の回りの事柄に自分がどう関わっていくのか、変えていきたいのかと考えることが大事なのだと教えてもらった。
- ・生物資源分野を複数の視点から見つめることで、地方創生に生かすことができる分野が見えてくることが分かった。
- ・大学の研究を通して地方に貢献していくのは大切だと思った。
- ・自分たちの生活に重要なテクノロジーや微生物など、研究が多岐に渡っている。
- ・希少糖がいろいろなところで利用されていて驚いた。香川から世界につながっていて嬉しい。
- ・希少糖による生活習慣の改善や新しい事業のことに興味が少し湧いた。
- ・希少糖の研究を進めて、世界に希少糖の良さを発信していけたらいいと思った。
- ・生物分野を詳しく学んで、社会に貢献していきたいと思った。